

令和 2 (2020) 年度
志學館大学学生に対する
生活調査の結果

令和 2 年 12 月
志學館大学学務委員会
志學館大学 I R 室

1. 趣旨

学生の生活実態、学修行動、大学の施設等への満足度は、教育の質の向上を図るための諸施策を企画・実施するために必須の基本情報である。志學館大学では、これらの情報を収集するために、学務委員が中心となって、学生に対する電子的アンケート調査を実施した。

本報告において、特に断りのない場合、[] 内の数値は、過去3カ年間に実施した同調査（以下「2019調査」「2018調査」「2017調査」という。）における値を示し、[2019調査、2018調査、2017調査]の順で示す。また[]内の数値が3つに満たない場合は、同順で直近のものが記してある。

2. 資料

全学生（大学院学生を含む。以下、同じ。）1534 [1375、1311、1249] 人を対象に、ユニバーサルパスポートシステムを通じて、以下のカテゴリーに分けられる31 [30、33、28] の設問に答えて貰った。

- (1) 学生の属性に関する情報
- (2) 住居・通学手段等
- (3) 学修行動
- (4) 本学の施設への満足度
- (5) 生活困窮度とアルバイト
- (6) 心身の健康度
- (7) 大学生活全般への取り組みと満足度

2020年9月9日～9月30日の間に、計857 [565、643、417] 人（男子394 [276、304、200] 人、女子371 [253、339、217] 人、無回答92 [36] ）の学生から回答があった。（回収率55.9% [41.1%、49.0%、33.4%] ）（表1）。なお性別に関しては、任意回答項目としてあるため、無回答がある。

学年別では、低学年ほど回答数が多く、高学年の回答数が少なかった。学科等別では、対学生現員数の回答率は法ビジネス学科で低かった（心理臨床学科66%、人間文化学科68%、法律学科44%、法ビジネス学科29%）。

表1 調査で得られた資料数

学年	人数	学科等	人数
1年生	314	心理臨床	381
2年生	214	人間文化	191
3年生	164	法律	193
4年生	159	法ビジネス	59
5年目以上	6	大学院	2
大学院	0	その他	31
その他	0	合計	857
合計	857		

3. 分析結果

住居及び通学手段等： 学生の住居は、自宅（親族と同居）が603[405、463、293]人（回答総数の70 [72、72、70] %）と最も多く、次にアパート・マンションが多かった。寮生は3.0

表2 住居及び通学時間

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
自宅	603	70.4	15分以下	174	20.3
親類知人	5	0.6	30分以下	189	22.1
アパート・マンション	217	25.3	60分以下	204	23.8
寮	26	3.0	90分以下	92	10.7
下宿	0	0	120分以下	34	4.0
その他	6	0.7	120分を超える	8	0.9
合計	857	100	合計	701	81.8

[3.9、5.0、3.0] %と少なかった。

通学時間（家から大学までの片道所要時間）の長短はさまざまで、概ね90分以下でばらついていた。120分を超える者もわずかにいる一方で、全体の66.2%は60分以下であった。

通学手段については、複数の手段を利用している場合はすべてを答えて貰った。乗物を使わず徒歩のみの者は、199人(23%) [129人(23%)、159(25%)] であった。個人的な交通手段（自転車、バイク、自家用車（送迎を含む））を用いている者は合計413人(48%) [243人(43%)、297(46%)、210(50%)] で、公共交通手段（JR、市電、バス、フェリー）を利用している者は合計517人(48%) [360人(64%)、397人(62%)、274人(66%)] であった。

2つ以上の乗物を併用している者は223人(26%) [140人(25%)、170人(26%)]、JRとフェリーを合わせて275人(32%) [194人(34%)、217人(34%)、137人(33%)] であるのは、通学時間が長い者が少なくない事実と対応し、本学学生の通学圏が極めて広いことを示唆している。これらの比率は、2019調査及び2018調査、2017調査における比率とほぼ同じであった。

表3 通学手段（移動手段すべて）

回答	回答数	比率%
乗物を使わず徒歩のみ	199	23.2
自転車	150	17.5
バイク	145	16.9
自家用車	54	6.3
自家用車（送迎）	64	7.5
JR	261	30.5
市電	103	12.0
バス	139	16.2
フェリー	14	1.6
その他	6	0.7
合計	1135	132.4

学修行動等： 1週間あたりの平均通学日数（2020年7月）は、5日(37%) [57%、56%、53%]がもっとも多かったが、割合は例年より低下していた。次いで多かった6日(29%)は昨年度6%から大きく増加している。4 [4、5、4] 日以上大学に来ている者の合計は82% [87%、88%、83%] で、出席状況は悪くはないと言える。ただし、学修状況が芳しくない学生は本アンケートに答えていない率が高いと考えられることから、この分析結果にはある程度の留保が必要だろう。

大学に来た時に大学に留まっていた時間は1時間未満から8時間以上までばらついていたが、緩やかなモードは3時間から6時間あたりにあり、平均値は約5.0 [5.5、5.4] 時間程度であった（回答が最初から階級分けされたものなので、近似値である）。この値は、過去の調査とほぼ同じで、本学学生は一度登校すると、大学に長くとどまる傾向にあると判断できる。これは、通学時間が長いこと、本学周辺にキャンパスを離れる要因となる学生街等がないこと、サークル活動が学生生活の大きな部分を占めている学生が多いことなどが要因なのではないかと考える。

表4 週当たり通学日数及び日当たり在学時間

通学日数/週	回答数	比率%	在学時間/日	回答数	比率%
0日	24	2.8	1時間未満	25	2.9
1日	47	5.5	～2時間未満	38	4.4
2日	40	4.7	～3時間未満	92	10.7
3日	45	5.3	～4時間未満	184	21.5
4日	120	14.0	～5時間未満	185	21.6
5日	314	36.6	～6時間未満	164	19.1
6日	246	28.7	～7時間未満	85	9.9
7日	21	2.5	～8時間未満	50	5.8
合計	857	100	8時間以上	34	4.0
			合計	857	100

平日（2020年度前期）1日に予習に当てる平均時間は1時間未満、1時間以上2時間未満が多く、合わせて311人(36%) [233人(41%)、257人(39%)] であった。平均値は32分 [31分、26分] 程度であった。一方、「まったくしなかった」者が113人(13%) [72人(13%)、108人

(17%)] おり、これに無回答者を含めると 528 人(62%) [323 人(57%)、382 人(59%)] になる。

平日の復習時間でも「1 時間未満」が 222 人(26%) [173 人(31%)、187 人(29%)] と多く、「1 時間以上 2 時間未満」と合わせて 336 人(39%) [252 人(45%)、292 人(45%)] であった。「まったくしなかった」者は 87 人(10%) [55 人(10%)、76 人(12%)] であり、無回答者と合わせて 501 人(59%) [302 人(53%)、349 人(54%)] になる。平均値は 38 分 [36 分、34 分] 程度であった。

週末の予習時間は、「1 時間未満」が 182 人(21%) [131 人(23%)、142 人(22%)] で、「まったくしなかった」者 164 人(19%) [111 人(20%)、144 人(22%)] に無回答者を合わせると 585 人(68%) [367 人(65%)、428 人(67%)] であった。平均値は 30 分 [29 分、26 分] で平日とほぼ同じであった。

週末の復習時間は、「1 時間未満」が多く 164 人(19%) [137 人(24%)、142 人(22%)] であり、「1 時間以上 2 時間未満」と合わせて 268 人(31%) [209 人(37%)、227 人(35%)] であった。「まったくしなかった」者は 132 人(15%) [84 人(15%)、111 人(17%)] であり、無回答者と合わせて 554 人(65%) [336 人(56%)、394 人(61%)] であった。平均値は 39 分 [37 分、35 分] 程度で、平日とほぼ同じであった。

表 5-1 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間 (予習)

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	415	48.4	無回答	421	49.1
まったくしなかった	113	13.2	まったくしなかった	164	19.1
1 時間未満	237	27.7	1 時間未満	182	21.2
～2 時間未満	74	8.6	～2 時間未満	70	8.2
～4 時間未満	13	1.5	～4 時間未満	17	2.0
4 時間以上	5	0.6	4 時間以上	3	0.4
合計	857	100.0	合計	857	100.0

表 5-2 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間 (復習)

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	414	48.3	無回答	422	49.2
まったくしなかった	87	10.2	まったくしなかった	132	15.4
1 時間未満	222	25.9	1 時間未満	164	19.1
～2 時間未満	114	13.3	～2 時間未満	104	12.1
～4 時間未満	17	2.0	～4 時間未満	30	3.5
4 時間以上	3	0.4	4 時間以上	5.0	0.6
合計	857	100.0	合計	857	100.0

平日に授業に関連しない学習を行っている時間は、「1 時間未満」が 155 人(18%) [128 人(23%)、144 人(22%)] で、「1 時間以上 2 時間未満」と合わせて 236 人(28%) [182 人(32%)、200 人(31%)] であった。「まったくしなかった」者は 146 人(17%) [108 人(19%)、133 人(21%)] であり、無回答者と合わせて 573 人(67%) [363 人(64%)、413 人(64%)] であった。平均値は 47 分 [35 分、35 分] 程度であった。

週末の授業に関連しない学習時間は、「1 時間未満」が 131 人(15%) [101 人(18%)、109 人(17%)] であり、「1 時間以上 2 時間未満」と合わせて 214 人(25%) [157 人(28%)、181 人(28.2%)] であった。「まったくしなかった」者は 155 人(18%) [115 人(20%)、137 人(21%)] であり、無回答者と合わせて 579 人(68%) [374 人(66%)、425 人(66%)] であった。平均値は 55 分 [45 分、42 分] 程度であった。

予習、復習、授業外の学習を合計した平日の総学習時間は、平均値が 113 分 [96 分、93 分] 程度であり、週末では 120 分 [108 分、101 分] であった。

さらに上記の各学習時間間の間の相関関係を検討すると、予習と復習は平日も週末もセットで行い、平日の学習が多ければ週末も多くしているという傾向が見られた。

表 5-3 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間（授業に関連しない学習）

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	427	49.8	無回答	424	49.5
まったくしなかった	146	17.0	まったくしなかった	155	18.1
1時間未満	155	18.1	1時間未満	131	15.3
～2時間未満	81	9.5	～2時間未満	83	9.7
～4時間未満	31	3.6	～4時間未満	40	4.7
4時間以上	17	2.0	4時間以上	24	2.8
合計	857	100	合計	857	100

表 5-4 平日の日当たり学修時間及び週末の日当たり学修時間（合計）

[平日] 回答	回答数	比率%	[週末] 回答	回答数	比率%
無回答	431	50.3	無回答	430	50.2
まったくしなかった	41	4.8	まったくしなかった	68	7.9
1時間未満	68	7.9	1時間未満	54	6.3
～2時間未満	154	18.0	～2時間未満	132	15.4
～4時間未満	124	14.5	～4時間未満	114	13.3
4時間以上	39	4.6	4時間以上	59	6.9
合計	857	100	合計	857	100

（サークル活動等） サークルに加入していない者が428人(50%) [210人(35%)、211人(33%)、138人(33%)]であった。参加している者の中では、体育系サークルが187人(22%) [119人(21%)、178人(28%)]、文科系サークルの参加が236人(28%) [217人(38%)、246人(38%)]で、両者を合わせて423人(49%) [336人(59.5%)、424人(66%)、284人(68)%]がサークル活動に参加していた。その他、学友会役員会、银杏祭実行委員会に参加している者が24人(2.8%) [30(5.3%)、26人(4%)、17人(4%)]いた。複数サークルに参加しているとみられる者は33人(4%) [41人、36人]いた。

これらのことから、学生が授業科目の履修以外のさまざまな活動を活発に行っていると判断できるが、加入していない者の割合が急増していることには注意する必要がある。

表 6 サークル等への参加状況

回答	回答数	比率%
加入していない	428	49.9
体育系サークル	187	21.8
文化系サークル	236	27.5
学友会役員会	22	2.6
银杏祭実行委員	2	0.2
学外のサークル・団体	13	1.5
その他	13	1.5
合計	901	105.1

大学の施設への満足度とニーズ：「授業以外で最もよく利用する学内施設はどこですか」と問うたところ、「カフェテリア」が261人(31%) [152人(27%)、245人(38%)、171人(41%)]で、これまでの調査に引き続き最も多かった。次いで、「コスモスホール」、「図書館」、「空いている教室」の順で多く、これら合計が355人(41%) [249人(44%)、260人(41%)、167人(41%)]であった。カフェテリア、29年度にリニューアルしたコスモスホール、図書館が学内の「居場所」としての役割を果たしていることが、浮き彫りになっている

ると考える。

図書館への満足度については、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて741人(87%) [493人(87%)、544人(85%)、351人(84%)]で、満足度は高いと判断できる。不満なところとしては、まず「不満なところはない」とした者が578人(回答者中の64%) [380人(64%)、401人(62%)、236人(57%)]であった。残る279人 [185人、242人、181人]が挙げた不満のうち、「蔵書の種類や冊数」が171件(20%) [117件(21%)、149件(23%)、103件(24%)]で最も多かった。「開館時間」、「貸出しサービス」、「情報の案内の仕方」等のソフト面での不満はいずれも多くはなかった。一方、「利用者のマナー」といった、利用者側の問題点の指摘も17件(5.1%) [15件(2.7%)、23件(4.0%)、13件(3.0%)]あった。

表7 よく利用する学内施設

回答	回答数	比率%
特になし/決まっていない	188	21.9
カフェテリア	261	30.5
図書館	117	13.7
コスモスホール	147	17.2
本館3階ロビー(学習室)	29	3.4
空いている教室	91	10.6
その他	24	2.8
合計	857	100.1

表8 図書館への満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率%
非常に満足	236	27.5
どちらかといえば満足	505	58.9
どちらかといえば満足していない	96	11.2
まったく満足していない	20	2.3
合計	857	99.9

回答	回答数	比率%
開館時間	40	4.7
蔵書の種類や冊数	171	20.0
貸し出しサービス	26	3.0
情報の案内の仕方	27	3.2
利用者のマナー	17	2.0
その他	44	5.1
合計	325	38.0

コンピュータ室については、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて804人(94%) [528人(94%)、583人(91%)、372人(89%)]で、満足度は高いと判断できる。不満な点を具体的に上げて貰ったところ、「不満なところはない」とした者が616人(回答者中の72%) [387人(65%)、415人(65%)、237人(57%)]であった。残る241人 [178人、228、180人]が挙げた不満のうち、「利用できるパソコンの台数」が92件(11%) [99件(18%)、83件(12%)、76件(18%)]と最も多く、「パソコンの処理能力やアプリの不足」と合わせて154件(18%) [120件(21%)、119件(19%)、100件(24%)]であった。一方、「利用者のマナー」の問題点の指摘が80件(9%) [43件(8%)、76件(12%)、55件(13%)]あった。

表9 コンピュータ室への満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率%
非常に満足	383	44.7
どちらかといえば満足	421	49.1
どちらかといえば満足していない	49	5.7
まったく満足していない	4	0.5
合計	857	100

回答	回答数	比率%
パソコンの処理能力やアプリの不足	62	6.9
利用できるパソコンの台数	92	10.3
サポート体制	11	1.2
利用者のマナー	80	8.9
その他	33	3.7
合計	278	32.4

カフェテリアについては、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて741人(87%) [476人(84%)、544人(85%)、307人(74%)]で満足度は高いと判断できる。不満な

ところはないとした者が 553 人（回答者中の 65%） [347 人(52%)、350 人(54%)、189 人(45%)] であった。残る 304 人 [218 人、293 人、227 人] が挙げた不満のうち、「価格」109 人(13%) [64 人(11%)、95 人(15%)] をあげる者が多かった。「メニューの品揃え」72 人(8%) [63 人(11%)、99 人(15%)] や「机や椅子の配置など環境」に対する不満 74 人(8.6%) [75 人(13%)]、「利用者のマナー」72 人(8.4%) をあげる者も一定数いた。

表 10-1 カフェテリアへの満足度と不満がある事項

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
非常に満足	346	40.4	味	28	3.3
どちらかといえば満足	395	46.1	価格	109	12.7
どちらかといえば満足していない	100	11.7	営業時間	41	4.8
まったく満足していない	16	1.9	メニューの品揃え	72	8.4
合計	857	100	アレルギー情報等の表示	10	1.2
			机や椅子の配置など環境	74	8.6
			利用者のマナー	72	8.4
			その他	26	3.0
			合計	432	50.4

コスモスホールについては、「非常に満足」と「どちらかという満足」の両者を合わせて 799 人(93%) [525 人(92%)、602 人(93.6%)] で、満足度は高いと判断できる。

生活困窮度とアルバイト： アルバイト収入を得る前に、金銭的な面で生活の余裕はあるかとの問いに、117 人(14%)

[65 人(12%)、89 人(14%)、37 人(9%)] が「非常に苦労している」と答え、「どちらかと言えば苦労している」と合わせて 398 人(46%) [266 人(47%)、324 人(50%)、205 人(49%)] であった。一方、アルバイト経験の有無では、637 人(74%) [423 人(75%)、512 人(80%)、341 人(82%)] が経験をしていた。アルバイト収入を得たのちの金銭的な生活の余裕については、26 人(3%) [28 人(5%)、35 人(5%)] が「それでも非常に苦労している」と答え、「どちらかと言えばまだ苦労している」と合わせて、230 人(27%) [157 人(28%)、191 人(30%)] であった。

2020 年度前期の期間のアルバイトの頻度を聞いたところ、アルバイトをしなかった者(320 人(37%))を除くと、1 週間に 3~4 回程度のアルバイトを行っている者が 287 人(34%) [210 人(37%)、242 人(38%)、165 人(54%)] で最も多く、5 回以上行っているものを合わせると 324 人(38%) [236 人(42%)、295 人(46%)] であった。

2020 年 6 月と 7 月の月間アルバイト収入を聞いた。下の表の数値はその 2 か月間の平均値である。月間アルバイト収入は 2 万円から 4 万円の者が 115 人(本設問回答者中の 31%) [83 人(31%)、次いで 4 万円から 8 万円の間の者が 113 人(本設問回答者中の 31%) [104 人(39%)、126 人(38%)、100 人(40%)] と多かった。本設問回答者の平均月間アルバイト収入は約 3.6 万円 [3.9 万円、4.3 万円、4.0 万円] 万円であった。なお、8 万円を超えるアルバイトを行っている者が 19 人(5%) [14 人(3%)、33 人(5%)、12 人(5%)] おり、最大値は 18 万円 [12.4 万円、15.5 万円、13 万円] であった。

上記の困窮度の質問で「非常に困っている」と答えた 117 人 [65 人、89 人、37 人]のうち、65 人 [38 人、55 人、25 人] がこの質問で収入があった。残りの 53 人 [27 人、34 人、12 人] 人は困窮していても少なくとも 6 月と 7 月には、アルバイトをしていないかアルバイ

表 10-2 コスモスホールへの満足度

回答	回答数	比率%
非常に満足	414	48.3
どちらかといえば満足	385	44.9
どちらかといえば満足していない	47	5.5
まったく満足していない	11	1.3
合計	857	100

表 11 生活困窮度とアルバイト経験の有無

【アルバイト収入を得る前】

回答	回答数	比率%
非常に苦勞している	117	13.7
どちらかと言えば苦勞している	281	32.8
どちらかと言えば苦勞していない	354	41.3
余裕がありお金で苦勞はしていない	105	12.3
合計	857	100

回答	回答数	比率%
アルバイト経験あり	637	74.3
なし	217	25.3
わからない	3	0.4
合計	857	100

【アルバイト収入を得たのち】(アルバイト経験者)

回答	回答数	比率%
それでも非常に苦勞している	26	3.0
どちらかと言えばまだ苦勞している	204	23.8
どちらかと言えばもう苦勞していない	220	25.7
余裕ができお金で苦勞はしていない	123	14.4
合計	573	66.9

表 12 アルバイトの頻度と月間アルバイト収入

回答	回答数	比率%
アルバイトはしなかった	320	37.3
不定期/単発アルバイト	50	5.8
1週間に1~2回	163	19.0
1週間に3~4回	287	33.5
1週間に5回以上	37	4.3
合計	857	100

回答	回答数	比率%
1万円以下	74	20.2
2万円以下	46	12.5
4万円以下	115	31.3
8万円以下	113	30.8
8万円を超える	19	5.2
合計	367	100

ト収入0と報告している。一方、8万円を超える収入があった19人のうち、アルバイト収入を得たのちも「それでも非常に苦勞している」と答えたものが1人[3人、6人]いた。

アルバイトに伴って発生するトラブルについて問うた。アルバイトなしとアルバイト先とのトラブル経験なしとの回答が合わせて815人(91%) [530人(90%)、580人(85%)、284人(87%)]であったのに対して、残りの者から79件 [57件、99件、77件] 件のトラブルが挙げられた。「給料の未払いがあった」「サービス残業を強いられる」という悪質なものが19件(2%) [7件(1%)、15件(15%)、16件(21%)]であった。「休みを申し出ても休ませてもらえない」、「辞めたくても辞めさせてもらえない」、「無理なシフトを強制されることが多い」等の、学業に悪影響を及ぼすようなトラブルが、合計39件(4%) [34件(6%)、60件(6%)、34件(4%)]であった。

表 13 アルバイト上のトラブル

回答	回答数	比率%
アルバイトなし	247	28.8
トラブルなし	568	66.3
給料の未払いがあった	8	0.9
休みを申し出ても休ませてもらえない	12	1.4
辞めたくても辞めさせてもらえない	8	0.9
無理なシフトを強制されることが多い	19	2.2
サービス残業を強いられる	11	1.3
その他のトラブル	21	2.5
合計	894	104.3

身体と気持ちの健康度： 2020年6月~7月の期間の身体の状態を聞いたところ、「健康

表 14 身体と気持ちの健康度

回答 (身体)	回答数	比率%	回答 (気持ち)	回答数	比率%
健康で調子が良かった	420	49.0	健康で調子が良かった	283	33.0
まあまあ調子は良かった	330	38.5	まあまあ調子は良かった	344	40.1
少し調子が悪かった	79	9.2	少し調子が悪かった	158	18.4
調子が悪かった	28	3.3	調子が悪かった	72	8.4
合計	857	100	合計	857	100

で調子が良かった」と「まあまあ調子は良かった」を合わせて750人(88%) [476人(84%)、557人(87%)、364人(88%)]であったが、「調子が悪かった」との回答が28人(3%) [23人(4%)、25人(4%)、9人(2%)]いた。同じ期間の気持ち・メンタルな面での健康状態では、72人(8%) [33人(6%)、44人(7%)、27人(6%)]が「調子が悪かった」と答えた。

「大学内に気の合う人やよく話す人はいるか」との問いに、83人(10%) [43人(8%)、32人(5%)、24人(6%)]がいないと、75人(9%) [47人(8%)、54人(8%)、31人(7%)]が「分からない」と答えた。これらの者は大学生活の中で孤立化している学生である可能性があるため、十分なモニタリングが必要である。

表 15 大学内に気の合う人やよく話す人がいるか

回答	回答数	比率%
いる	475	84.1
いない	43	7.6
分からない	47	8.3
合計	565	100

大学生活全般への取り組みと満足度：「大学卒業後の進路を見据えて何らかの準備をしているか」との問いに対し、「一生懸命に取り組んでいる」、「ある程度は取り組んでいる」、「計画があり、現在取り組みつつある」という積極的な回答が合計525人(61%) [368人(65%)、379(59%)、272人(65%)]であった。ただし、「準備をする気持ちがない、気持ちになれない」と「分からない」が合わせて87人(10%) [41人(7%)、69人(11%)、29人(7%)]おり、なんらかの対処が必要である。

「自分の大学生活全般への満足度」を問うたところ、「大いに満足している」、「やや満足している」を合わせて458人(53%) [338人(60%)、373人(58%)、240人(57%)]であった。一方、「やや満足していない」、「まったく満足していない」、「分からない」を合わせて、129人(15%) [73人(13%)、93人(15%)、62人(15%)]いた。

表 16 大学卒業後の進路を見据えた準備と大学生活全般への満足度

回答	回答数	比率%	回答	回答数	比率%
一生懸命に取り組んでいる	171	20.0	大いに満足している	107	12.5
ある程度は取り組んでいる	210	24.5	ほぼ満足している	351	41.0
計画があり、現在取り組みつつある	144	16.8	どちらとも言えない	270	31.5
計画はあるが、行動はしていない	84	9.8	やや満足していない	76	8.9
ほとんど何もしていないが、取り組む気持ちはある	161	18.8	まったく満足していない	43	5.0
準備をする気持ちがない、気持ちになれない	29	3.4	分からない	10	1.2
分からない	58	6.8	合計	857	100
合計	857	100			

4. まとめ

本学学生の通学時間や通学手段の各比率は、2019 調査、2018 調査及び 2017 調査とほぼ変化はなかった。通学時間が 60 分以下の学生は全体の 66% [63%、68%]で、ほぼ変化なく安定している一方

で、やはり一部に極めて長い学生もいた。それら学生にとっては、学修時間やサークル活動に費やすことができる時間の上で、ハンディキャップになっている可能性が、依然としてある。

住居については、自宅が約70%、アパート・マンションが25%であり、割合に大きな変化はないが、学生の通信環境への配慮が必要な場合には踏まえておくべき数値であろう。

登校状況(2020年7月)は、2019年同時期と比較して、0日/週と1日/週の割合がそれぞれ1%から3%、3%から6%へとわずかに増加し、6日/週の割合は6%から29%へと大幅に増加している。これら7月に行われた土曜授業の影響と考えられる。

登校した場合の滞在時間は、幾分長時間化の傾向はあるものの、2019調査、2018調査及び2017調査とほぼ同じで、概して良いと判定できる。

予習、復習、授業外の学習を含めた総学習時間について見ると、学習時間に関する一連の質問に「無回答」の割合はわずかに増加しているものの、「まったくしなかった」は平日及び週末ともに微減している。ただし全体的には、学習に費やしている時間の点では不十分な学生が多いこともあらためて示された。シラバス上での事前事後学習内容の具体的明示等を開始し、また2018調査より学習時間に関する質問の精度を高めたので、今後もその変化を継続的に測定し、学修を促す方途の評価をこれら指標を用いて検討していく必要があるだろう。

サークル等への参加状況を見ると、参加していない者の割合が2019調査37%から50%まで増加している。参加していない者のうち187人(44%)が1年生であり、コロナ禍により制限された生活様式の影響が出ている可能性がある。

経済的に困窮している(「非常に苦勞している」「どちらかと言えば苦勞している」とした)学生の割合は、2019調査、2018調査及び2017調査とほぼ同率で約50%であった。学生の大半(約8割)がアルバイト経験があり、アルバイト収入を得た後でも困窮しているとした学生は、約3割にのぼる。

施設については、図書館、コンピュータ室、カフェテリアの満足度は、これまでの調査に引き続き概して高かった。2018調査からは、これに加えて改装されたコスモスホールについても尋ねたが、満足度は非常に高く、また学内における居場所として機能していることも示された。また2019調査より、学内での「居場所」についての問いは、「授業以外でよく利用する学内施設はどこか」を問うものに改めたが、「(学内でもよく利用する施設は)特にない」としたものが、例年とほぼ同率の約2割程度いた。アメニティ空間の創造については今後も検討を進めていく必要がある。その際、現行の設問(問いかけ方)が学内アメニティ環境の整備状況の確認や学生の意見を取り入れた環境整備に資するものとなっているか、検討する必要がある。

心身の健康についての回答割合は、2019調査、2018調査及び2017調査結果とほぼ近く、大きな変化は見られない。大学内に「気の合う人・よく話す人の有無」を問う項目で(2018調査までは「仲の良い友人がいるか」)、「いる」とした学生の割合は、2019及び2018調査とほぼ同じであった(約8割)。身体及び気持ちの部分で「調子が悪い」とした学生も一定数、変わらず見いだされた。

将来を見据えた準備状況に関しても、2019調査、2018調査及び2017調査とほぼ変化はなく、約6割が積極的な取組を示した一方で、準備をしていないことをうかがわせる層もやはり見受けられる。

学生生活調査は、2017調査から一部を除き質問内容をほぼ固定して実施してきており、2020調査の質問内容は、2019調査と同様のものであった。今後もこの方向性を維持することで、単年度の吟味に加えて、その変化に関する検討が可能となる。本学学生の諸特徴を捉える定点観測データを提供していくとともに、本学の各種施策・取組の方向性の検討や効果性の検証の際に活用していくための工夫が必要であろう。

また本年度調査の回収率は例年より高かった(56%)[41%、49%、33%]が、本調査の趣旨に照らし回答率の一層の向上が望まれる。